

《入選》

命を大切に生きて

城東小学校 六年

ひこき じゅうのすけ
久木 柊乃丞 さん

戦争は絶対にいけないことだ。

僕は二年前に沖縄に行った。そのときは海とか水族館とか楽しむことしか頭になかった。平和祈念館を、訪れることになり、僕は当時戦争や歴史になんか興味がないし、めんどくさいと思った。戦争は自分には関係ないし、遠い昔のことではないかと思っていた。それに僕には理解できないかと思っていた。しかし、実際に沖縄に行ってみると全然違った。まず、一番最初に思ったのはアメリカ軍の軍用機の飛び音がとてもう

るさいことだ。最初は何がうるさいのか分からなくて父に聞いてみた。父は、「アメリカの軍用機だよ。」

と言った。僕は、なぜアメリカの軍用機があるのか理解できなかったから、もう一度父に尋ねてみた。すると父は「昔にあった第二次世界大戦のなごりだ。」

と教えてくれた。アメリカが沖縄を戦争のために支配していたときの影響はまだ残っているのだと驚いた。平和祈念館に行くと沖縄戦の悲惨さがとても伝わった。館内を見学して怖いと思った。当時の映像や写真、戦争を経験した人の証言がたくさん残っていて、当時は可哀そうよりも怖いという思いが強かった。外に出ると戦争で亡くなったたくさんの方の名前が書いていた記念碑があった。「平和の礎」だ。こんなにたくさん

の人が亡くなったんだと改めて思い、戦争って怖いなと感じた。外の景色は青い空、青い海が広がっていて、こんなきれいなところで地上戦があったなんて信じられなかった。

六年生の社会科で日本国憲法について学習した。そのときに沖縄の平和祈念館のことを思い出した。「社会では戦争があったことを受け止めるだけでなく後世に伝えていくことが大切」と学んだ。今度僕は広島に行く。広島は世界で初めて原爆が落とされた場所だ。広島にも平和記念資料館がある。広島でも沖縄と同じようにたくさんの方が亡くなった。僕は、平和記念資料館に行つて何を覚えて何を感じるのだろうか。谷川俊太郎さんの「生きる」という詩の一部が特に印象に残っている。

生きていくこと
いま生きていくこと
泣けること
笑えること
怒れること
自由ということ

この詩の最後は「いのちのこと」という言葉でしめくくられている。

戦争は大勢の命を簡単にうばってしまう。今、世界中でいくつもの戦争や紛争が起きている。二度と戦争を起こさないように戦争の怖さや恐ろしさを後世に伝えていきたい。そして、「命」を大切に、生きていく。「今」を大切にしたい。
(注)本文中に引用されている詩は、谷川俊太郎『うつむく青年(1971年)』(山梨シルクセンター(現サンリオ)より引用)。